

論壇

コストより飛躍の好機

コロナ危機を契機に社会が大きく変わりつつある。今日は、グリーンという視点から変化の流れについて述べてみたい。欧州諸国は、コロナ危機によって低迷している経済を立て直す原動力としてグリーンディールと呼ばれる戦略を打ち出した。欧州諸国はもとも気候変動問題への対応に積極的であったが、温暖化ガス排出の抑制をコストと考えるのではなく、経済が大きく飛躍するためのチャンスとして捉えようというのだ。

2050年までに温暖化ガスの

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

コロナ危機と「グリーン」

排出をゼロにするためには、経済全体を構造的に変える必要がある。ガソリンやディーゼルの自動車の生産はやめて、全て電気自動車(EV)などにシフトしていく。発電でも化石燃料の利用は減らし、再生可能エネルギーに替えていく。原子力発電をどうするのかという問題はあるが、欧州

前からカリフォルニア州では先行して自動車のEV化を進める動きが顕著だ。こうした動きに背中を押された感じはあるが、日本も50年までに温暖化ガスの排出を実質でゼロにする方向で動き始めた。これによって日本の産業構造にも大きな影響が及ぶことになるだろう。ただ、

ブリッド車(HV)を活用していく道もある。最終的には全ての車でガソリンを使わないことにするとしても、その途上でHVの役割は大きい。ただ、欧州などではHVを環境対応車とは認めないという方向に動くように見える。ガソリン車で日本やドイツのメーカーに劣っている英仏などが自動車の電氣化を急ぐのは、自動車における失地を回復しようという狙いも見える。

自動車依存から脱却を

電氣自動車競争力の鍵を握るのはバッテリーである。かつてはソニーなどが先行していたバッテリー分野でも、今や中国や韓国のメーカーの追い上げが激しい。半導体や液晶などで起きたこ

とがバッテリーでも起きつつあるようにも見える。自動車の電氣化の動きに対して、日本では企業も政府もその対応のスピードがあまりにも遅かったように見える。ここで動きを速めていかないと遅れを取り戻すのも難しくなる。日本の産業構造は自動車の一本足構造であると言われる。自動車の裾野が広いということもあって、自動車産業に過度に依存しているのが、日本の産業の特徴である。一本足という意味では、静岡県県の産業構造の自動車依存はさらに顕著だ。このままではジリ貧になるばかりだ。自動車の電氣化やビジネスの脱自動車という視点で産業の未来を展望する必要がある。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。